

みま そうばしら
水間の古墳と総柱建物群

水間遺跡 水間町

奈良市では、3年前から県営ほ場整備事業田原東地区に伴う発掘調査を6次にわたって実施してきました。今回の調査では、A～Cの3箇所に発掘区を設定して行なっています。このうちA・C発掘区から多くの遺構が発見されています。以下にそれぞれの概要について説明いたします。

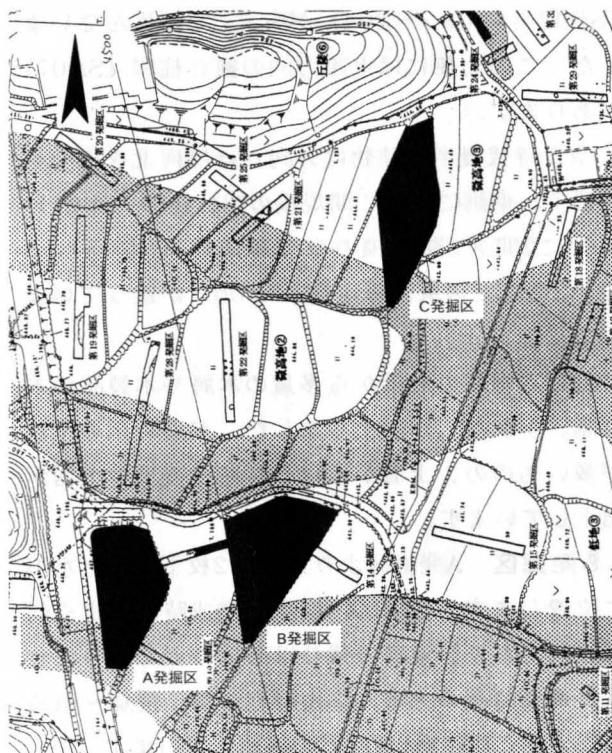
A発掘区 国道369号線の東側に設けた発掘区です。その位置は、西から延びる丘陵の先端部付近になります。A発掘区から古墳2基、飛鳥～奈良時代の掘立柱建物6棟、掘立柱塀1条などを検出しました。

古墳は2基あり、周溝のめぐる発掘区東側の古墳を1号墳、周溝のない西側の古墳を2号墳と仮称しておきます。古墳の墳丘は、飛鳥～奈良時代に壊されて残っていません。古墳が築かれた時期は、出土した遺物から、5世紀（400年代）の終わり頃と考えられます。

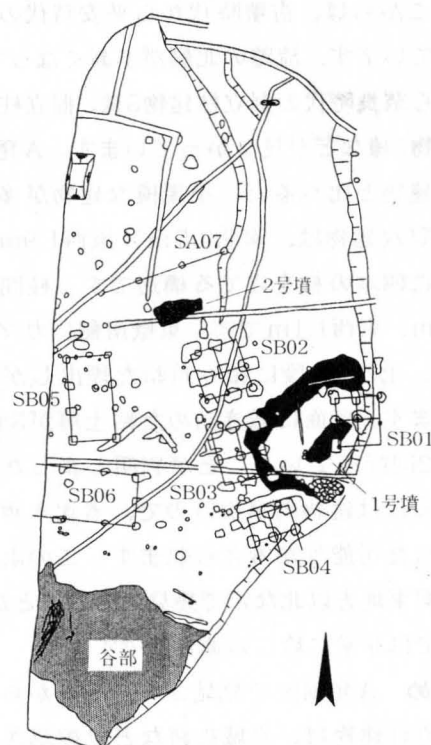
1号墳は、幅1.5mの周溝が方形にめぐっているため、一辺約7mの方形墳であったことがわかります。この中央には、割竹形木棺を埋納した墓坑がありました。割竹形木棺というのは、丸太を刳り貫いて作られた断面が丸い形の棺で、古墳時代によく使われました。棺の中には、鉄刀子、ガラス玉などが副葬されていました。南西側に頭を向けた女性が葬られていた可能性があります。周溝の北東隅には、土師器壺、須恵器壺・竊が置かれていました。

2号墳は、周溝が残っていないので、本来の古墳の大きさはわかりません。割竹形木棺を埋納した墓坑が残っていたので、ここに古墳があったことがわかりました。棺の中には、鉄剣、鉄鏃、鉄斧などの鉄製武器や農工具が副葬されていました。西側に頭を向けた男性が葬られていた可能性があります。

飛鳥時代から奈良時代の遺構は、掘立柱建物6棟、掘立柱塀1条を確認しましたが、全部が同時に建っていたわけではなさそうです。建物の方



発掘区位置図 (1/2,500)



A発掘区平面図 (1/500)

向や柱穴の遺物などから、大きく2時期の建物にわかれます。

飛鳥～奈良時代前半の建物は、方向が北で西へ振れている建物群で、2間×2間規模の総柱建物(SB02・SB03・SB04)が南北に3棟並んでいました。この北側には東西方向の掘立柱塀(SA07)があります。

奈良時代後半の建物は方向がほぼ南北を向く建物群で、東側に2間×2間規模の総柱建物(SB01)、西側に2間×3間規模の南北棟建物(SB05)、2間×2間以上の東西棟建物(SB06)が建っていました。

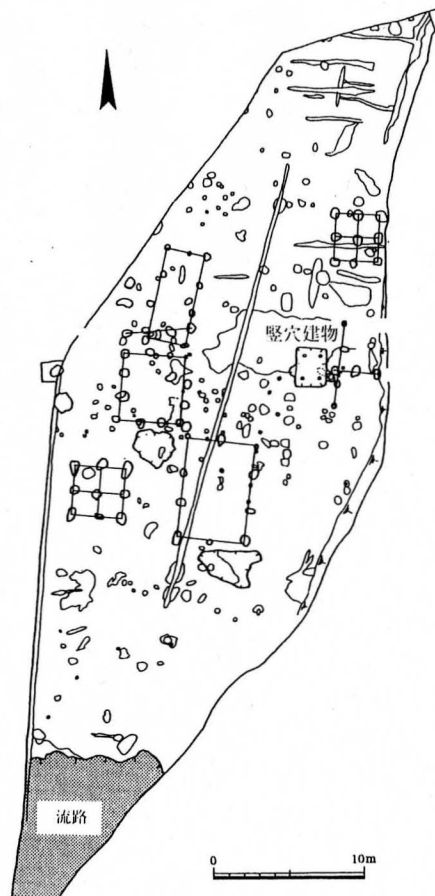
他に、南側の谷部から多量の木屑や木製品の未製品、下駄などが出土しました。飛鳥時代の土器が多いものの、上層からは奈良時代後半の土器が出土しています。

B発掘区 A発掘区より東側へ2枚下がった水田に位置します。発掘区内は水田造成時に大きく削平されており、遺構の残りはあまりよくありません。縄文時代の土坑、弥生時代の溝、飛鳥～奈良時代の掘立柱建物1棟などを確認しています。

C発掘区 B発掘区の北側に位置します。発掘区の南側に小さな谷があり、流路となっていました。ここからは、古墳時代から平安時代の遺物が出土しています、流路の北側が小高くなっており、ここから奈良時代の掘立柱建物5棟、掘立柱塀3条、竪穴建物1棟などが見つかっています。A発掘区の掘立柱建物と比べると、小規模な建物が多いようです。竪穴建物は、南北2.5m×東西1.9mの方形竪穴内に四本の柱を立てる構造です。柱間は、南北1.65m、東西1.1mです。東壁南側にカマドを造り付け、土器を3段に積み重ねた煙出しが取り付けられています。床面に敷き詰めた粘土層が3面あり、改修を2回行っていることが判明しました。人が居住するには建物内が狭いので、煮炊き専用の釜屋であった可能性が考えられます。このような遺構は、関東地方以北などで発見されることが多く、奈良県では非常に珍しい調査例です。

まとめ A発掘区で発見された飛鳥から奈良時代の掘立柱建物は、平城京跡などで確認される建物と同等の規模があり、倉庫と考えられる総柱建

物群が南北に並ぶなどの規則的な配置が認められます。このような建物群は、この辺りの一般的な住居跡とは考えられません。むしろ、C発掘区の建物群を一般的な住居跡と考えた方がよいでしょう。文献によれば、水間は古くから柚^ユであったことが知られています。柚では、山林の木材を伐採し、加工して搬出する仕事を主にしていました。A発掘区南側の谷部から出土した多量の木屑(手斧の削り屑)や木製品の未製品などは、そこで実際に木材生産、加工が行われていた証拠です。木材は貴重な資材として管理されており、柚にはそのための役所(山作所)が置かれていました。A発掘区で見つかった建物群は、この役所に関連した施設である可能性が推測されます。また、古墳の存在が確認できたのも大きな成果です。今まで水間町は、古墳の空白地でしたが、その認識を大きく変える発見となりました。1号墳、2号墳には、水間を代表するような有力者が埋葬されていたと考えられます。



C発掘区平面図(1/500)